

[第2章] 支援対象別報告書 13

支援事業基本データ

整理番号	13	支援コース	企画支援	応募団体	和歌山県
支援事業の目的	今後の建設が多数見込まれる格技場建設事業を題材として、県産材を活用し、可能な限り県内の事業者で事業推進できる仕組みを検討する。				
成果物	・県立の高等学校格技場の事業企画(案)				

対象建築物

用 途	体育館(県立高等学校 格技場)	工事種別	新築(1階RC造+2階木造)	建築規模	2階建て1棟(延べ面積 約600㎡)
防火上の地域区分	法22条区域	所在地	和歌山県		
地域材の定義	公共建築物で使用する材は、県で策定している地域認証材(紀州材認証システムによる「紀州材」)を使用することとしており、「紀州材」とは、和歌山県内の森林で生産され、和歌山県内で製材加工された木材及び木材加工品と定義されている。				

当支援事業で取り組んだ段階

企画	木材利用意識	木材調達知識	設計技術知識	発注(設計)	発注(工事)	設計	施工
----	--------	--------	--------	--------	--------	----	----

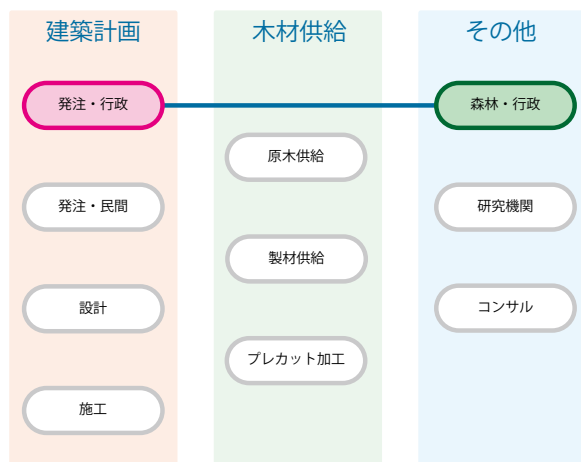
支援事業前の地域の状況

和歌山県では、現在まで、木造の公共建築物の取り組みは少ない。

県内には製材のJAS認定工場が7社あり、うち機械等級区分に対応する工場は2社(計20,000㎡/年、うち機械等級区分の木材流通量は5%程度。)である。乾燥材については、12m程度までの乾燥に対応可能な製材工場がある。

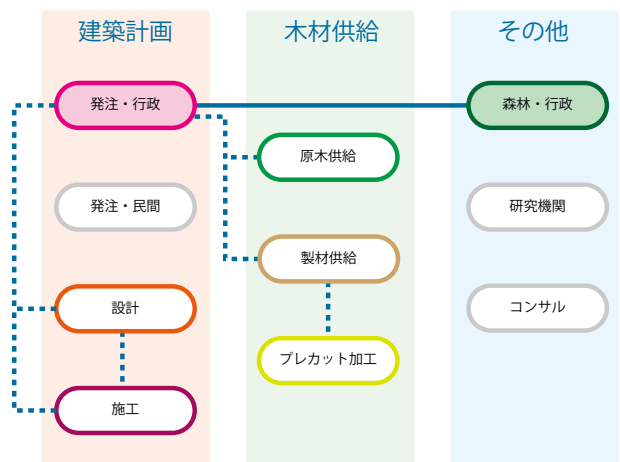
支援事業内関係図

支援事業前



発注者(行政)、森林行政(県・申請者)

支援事業完了後



〔増加した関係者〕

設計者(4団体)、施工者(県営繕協会)、原木供給者(森林組合連合会)、製材供給者・プレカット加工者(木材協同組合連合会)

行政主導でのスタートであったが、当支援により、設計者、施工者、原木供給者、製材供給者、プレカット加工者も加わり、相互に情報交換がなされた。今後も情報交換の仕組みが続くよう検討している。

❧支援事業前、支援事業中の課題

〔全体〕

現在まで、行政や設計者、施工者、木材供給者などの異なる立場の間での情報交換の機会は少なかった。特に木材供給者(原木生産、加工)と設計者及び施工者の相互理解は不十分な状況であった。そこで、情報交換の機会を設け、相互に理解を深め、課題の抽出やその対応策について共に検討する必要があった。

〔発注者〕

現在まで、県における木造の公共建築物の実績は少なく、木造建築物に対する基本的な情報が不足していた。

〔設計者〕

今後同規模での建設が多数見込まれる格技場は、地域の設計者にとって木造による設計実績がなく、大スパンの架構の実現や木材調達等に不安があった。

〔発注者・木材供給者〕

上記の格技場を含め、木造の公共建築物には大空間が求められることが多いが、製材のみでの計画では設計が難しく、集成材が用いられる傾向が強い。しかし、和歌山県内には大断面集成材工場がないことから他県での生産となる。県の地域認証材(紀州材)は、原木が県産材でかつ、県内で製材加工された木材及び木材加工品と定義されており、定義通り従えば集成材の利用は不可能であった。

❧支援事業後の成果

当支援では、WSを4回開催し、そのうち1回は先進事例の見学を行った。WSでは、基礎知識の習得、格技場を木造とするにあたっての課題抽出、事業企画についての検討を行った。

〔全体〕

当支援により、発注者や設計者、施工者、原木供給者、製材業者、プレカット加工業など立場の異なる関係者が一堂に会し議論する機会を得ることができたため、相互の情報交換が活発に行われ、具体的な建設事業を仮定した課題抽出やその対応策を検討できた。なお、このような意見交換の場の重要性について共通に認識され、勉強会等を継続するべきという意見が多数あり、県においては、今回の参加者を中心として、事業を支援する体制を構築するとともに、今後のプロジェクトも視野に入れた勉強会に発展させることを検討中である。

〔発注者〕

事業スケジュールと材の調達のための必要期間等を検討し、本事業においては、通常の材工一括発注方式を採用し、設計1年、施工1年の計2ヶ年度のスケジュールとすることが確認された。

〔発注者・木材供給者〕

規模の大きな木造において要望が多いと思われる集成材の地域材としての定義上の扱いを検討した。当支援によるWSにて「地域材の定義」に縛られず柔軟に対応することで、「県内」から「圏内」にまで意識を広げ地域経済を活性化させるという考え方を学んだことから、集成材とする場合は、県内産のラミナを近県の集成材工場で加工することとし、当面の現実的対応について一定の合意を得たと考えられる。

〔設計者〕

格技場の設計において、「集成材」を使用する場合と「一般的な製材」を使用する場合の2案を検討した。設計にあたり木材の品質が明確であることが重要であり、JAS材の利用が前提となることが認識された。WSでは県内の製材工場からの情報を得ることができ、検討事例程度の規模で必要となる木材量(150㎡程度)は、JAS材であっても一般流通材であれば、通常の市場で調達可能であることが確認された。